

「*medicina*」第33巻 総目次

1996年 第1号～第13号

(数字は頁数, ()は号数を示す.)
12号は増刊号につき不掲載.

〔今月の主題〕

抗生物質をどう使うか

〈抗生物質の投与に当たって〉

発熱から感染症をどう決めるか

……………北原 光夫 6(1)

抗生物質投与前に何をを行うか

……………西谷 肇 8(1)

抗生物質の有効性は何を根拠に判定するか

……………喜舎場朝和 10(1)

抗生物質の併用はどんなときに行うか

……………高橋 幸則 14(1)

抗生物質の中止は何を基準に決めるか

……………大石 和徳 16(1)

エンピリック・セラピーを開始するには何を使うか

……………西 信一 18(1)

抗生物質の予防投与はどんなときに行うか

……………青木 眞 22(1)

抗生物質投与中の副作用とその対応

……………高野 慎 25(1)

〈抗生物質の正しい使い方〉

ペニシリン合剤はどう使うべきか

……………和田 光一 29(1)

セフェム系抗生物質の正しい投与方法はどうあるべきか

一第一世代セフェム ……長井 苑子・他 33(1)

一第二世代セフェム ……渡辺 邦友 37(1)

一第三世代セフェム ……北原 光夫 40(1)

イミペネムはどんなときに役立つか

……………舟田 久・他 43(1)

モノバクタムの使いどころはどこにあるか

……………河野 修興 47(1)

アミノ配糖体抗生物質をどう併用するか

……………岡田 薫 50(1)

バンコマイシンをどう使うか

……………影山 慎一・他 54(1)

ニューキノロンは万能の抗菌剤か

……………杉本 勇二・他 56(1)

マクロライド系薬剤の適応疾患は何か

……………三笠 桂一・他 59(1)

ST 合剤の役割は何か ……近藤 信一 63(1)

アムホテリシン B の抗真菌剤としての立場は何か

……………小島 博嗣・他 67(1)

ジフルカン®とイトリゾール®をどう使い分けるか

……………二木 芳人 70(1)

ゾビラックス®はどんなウイルスに有効か

……………須磨崎 亮 74(1)

レトロビル®の適応と投与方法をどう決めるか

……………谷 憲三朗 77(1)

〈感染症への具体的対応〉

細菌性髄膜炎に第三世代セフェムをどう投与するか, また副腎皮質ホルモンは投与するか

……………大石 実 83(1)

若年者の肺炎の治療には何を選択するか

……………小場 弘之・他 86(1)

高齢者の肺炎の治療には何を選択するか

……………森 健 90(1)

院内感染の診断と治療はどう行うか

……………徳江 豊・他 93(1)

急性細菌性腸炎の治療はどう行うか

……………吉田 博・他 96(1)

偽膜性大腸炎の早期診断と治療はどう行うか

……………中原 朗・他 100(1)

敗血症にどう対応するか ……国元 文生 102(1)

好中球減少時の発熱に対して抗生物質をどう選択・投与すべきか

……………長山 人三・他 106(1)

尿路感染症をどう治療するか

……………村中 幸二 109(1)

糖尿病性壊疽の対策はどうあるべきか

……………細川 和広・他 112(1)

腎機能障害がある場合の感染症への対策をどう行うか

……………岡田 知也・他 115(1)

妊娠時の感染症への対策をどう行うか

.....工藤 美樹	118(1)
〈最近話題の感染症〉	
MRSA 感染症に併用療法は有効なのか	
.....青木 泰子	121(1)
MRSA 保菌者の入院中・入院後の対策と説明をどう	
行うか	遠藤 和郎 124(1)
劇症レンサ球菌感染症にどう対処するか	
.....山下 直哉	127(1)
<i>Helicobacter pylori</i> 感染にどう対処するか	
.....井本 一郎	130(1)
〈海外旅行者のための感染症の知識〉	
海外旅行者の感染予防対策と帰国後の下痢の対策を	
どうするか	一瀬 休生 133(1)
エボラ熱とはどんな感染症か	
.....中原 英臣	136(1)
マールブルグ熱とはどんな感染症か	
.....長谷川 均	138(1)
ラッサ熱とはどんな感染症か	
.....永武 毅	140(1)
今月の主題・理解のための 43 題	143(1)
解 答	209(1)
糖尿病臨床の最先端	
〈糖尿病の予知と予防〉	
世界の糖尿病一人種差, ライフスタイルとインスリン	
非依存型糖尿病の発症について	
.....繁田 幸男	218(2)
厚生省糖尿病調査研究疫学班の研究成果と今後の展	
開	赤澤 好温 221(2)
インスリン依存型糖尿病の頻度, 発症の予知と予防	
.....西村 理明・他	224(2)
〈糖尿病発症の分子機構〉	
インスリン分泌不全の分子機構	
.....清野 裕	228(2)
膵 B 細胞破壊の分子機構 伊藤 直人・他	230(2)
インスリン抵抗性の分子機構	
.....春日 雅人	233(2)
糖輸送の活性化機構—グルコーストランスポーター	
とインスリン作用	岡 芳知 237(2)
高血糖とインスリン抵抗性	
.....前川 聡・他	240(2)
〈糖尿病の新しい検査法〉	
糖尿病の診断基準をめぐる諸問題	
.....葛谷 健	244(2)
インスリン依存型糖尿病の診断—最近の話題	
.....川崎 英二	247(2)

血糖コントロール指標—HbA _{1c} 標準化, 1,5 AG, 糖	
化アルブミン測定の意義	島 健二 250(2)
〈糖尿病治療の最近の進歩〉	
糖尿病治療の原則と継続治療の重要性—Overview	
.....菊池 方利	253(2)
糖尿病患者の食事療法—食品交換表の改定をめぐる	
諸問題	池田 義雄 257(2)
糖尿病の運動療法—科学的処方と臨床上的諸問題	
.....佐藤 祐造・他	261(2)
新しい経口血糖降下剤—その理論的背景と有用性	
.....岩本 安彦	265(2)
インスリン治療の最近の進歩	
.....石木 学・他	269(2)
糖尿病と妊娠—管理上のポイント	
.....大森 安恵	274(2)
臓移植—欧米と比べてのわが国の現状と問題点	
.....馬場園哲也・他	277(2)
新しい糖尿病治療の将来展望—生体医用工学的 vs	
遺伝子工学的膵β細胞機能の再構築	
.....七里 元亮	280(2)
〈糖尿病合併症の診断・治療の新しい展開〉	
血糖コントロールと細小血管症—DCCT から学ぶ	
もの	金澤 康德 284(2)
糖尿病性腎症—診断基準と病期分類	
.....羽田 勝計	287(2)
糖尿病性腎症—治療の諸問題	
.....平井 法博・他	291(2)
糖尿病性網膜症の診断・治療の新しい展開	
.....福田 全克	294(2)
糖尿病性神経障害の診断基準とその評価法	
.....安田 斎	297(2)
糖尿病性神経障害治療薬—最近の進歩	
.....豊田 隆謙・他	301(2)
AGE/AGE 受容体	牧田 善二・他 305(2)
IGT と冠動脈硬化	嶋田 昌子・他 310(2)
インスリン抵抗性と冠動脈スパズム	
.....篠崎 一哉・他	313(2)
頸動脈超音波断層法からみた動脈硬化の進展因子と	
その対策	山崎 義光・他 316(2)
〈トピックス—糖尿病発症関連遺伝子の解析〉	
IRS-1 ノックアウトマウス	
.....荒木 栄一・他	321(2)
グルコキナーゼ遺伝子異常—グルコキナーゼ欠損マ	
ウスを含めて	寺内 康夫・他 324(2)
ミトコンドリア遺伝子異常	

.....鈴木 進・他	327(2)
インスリン依存型糖尿病の発症遺伝子解析—罹患同胞対法	池上 博司・他 330(2)
肥満遺伝子	細田 公則・他 334(2)
〈座談会〉	
糖尿病治療の諸問題とその対策	
河盛 隆造・阿部 隆三・堀田 饒・渥美 義仁・柏木 厚典	337(2)
今月の主題・理解のための 33 題	353(2)
解 答	405(2)
肝疾患 Q&A	
〈肝疾患の疫学と機序〉	
日本人のウイルス肝炎にはどのような特徴があるか	矢野 右人 418(3)
非 B 非 C 型慢性肝炎は何に起因するか	林 紀夫・他 421(3)
サイレント B 型肝炎のウイルスと病像はどこまで解明されたか	内田 俊和 424(3)
母子感染予防により HBV キャリアは消滅するか	白木 和夫 426(3)
献血者スクリーニングにより輸血後肝炎はどこまで制圧できるか	渡辺 哲・他 429(3)
医療従事者の職場感染によるウイルス肝炎は劇症化しやすいか	小坂 義種・他 432(3)
肝炎ウイルスによる肝発癌機構はどこまで解明されてきたか	樋野 興夫・他 435(3)
肝腎症候群の発症機序は解明されたか	与芝 真 438(3)
自己免疫性肝炎の発症機序—何が解明され、何が未解決か	森實 敏夫・他 441(3)
アルコール性肝障害における HCV 感染の実態と役割は判明したか	石井 裕正・他 445(3)
〈肝疾患の診断〉	
肝疾患のスクリーニングにはどのような臨床所見と検査に注目すべきか	池上 文詔 450(3)
HCV 関連検査を日常診療でどのように使い分けるか	吉澤 要・他 452(3)
肝生検は現在も肝疾患診断の gold standard か	山田剛太郎 455(3)
慢性肝炎を活動性・非活動性に分類する意義はあるのか	永井 孝三・他 458(3)
非定型の自己免疫性肝疾患の診断ではどのような点に留意すればよい	池田 有成・他 461(3)
薬物性肝障害をどのように疑い、原因薬をどう同定	

するか	北見 啓之・他 465(3)
画像診断でびまん性肝疾患の鑑別はどこまで可能か	渡辺 文彦 468(3)
画像診断で肝細胞癌と境界病変の鑑別はどこまで可能か	川森 康博・他 472(3)
肝細胞癌の腫瘍マーカーをどのように用いるか	武田 和久・他 475(3)
C 型慢性肝炎における肝細胞癌の早期発見はどのように行うか	江原 正明 479(3)
〈肝疾患の治療〉	
A 型肝炎の治療—いつ、誰に、何を行うか	山田 拓司・他 482(3)
B 型肝炎の治療—いつ、誰に、何を行うか	岩渕 省吾 485(3)
C 型肝炎の治療—いつ、誰に、何を行うか	漆原 昭彦・他 488(3)
非 A 非 B 非 C 型肝炎の治療をどうすべきか	長谷部千登美・他 493(3)
IFN 療法が有効な症例をどう見つけるか	折戸 悦朗・他 496(3)
IFN の最良の投与スケジュールは決定されたか	飯野 四郎 501(3)
高齢者にどこまで IFN 治療を勧めるか	茶山 一彰 504(3)
IFN 以外の肝炎治療薬に展望はあるか	松嶋 喬 507(3)
UDCA は PBC の長期予後を改善できるのか	柴田 実・他 510(3)
難治性腹水にどう対処するか	金地 研二 513(3)
SBP に対する抗生物質をどう選択するか	井出 広幸 517(3)
食道静脈瘤—EIS か、EVL か	大政 良二・他 520(3)
どのような状況で TIPS は最も有用か	磯部 義憲 524(3)
小肝癌の治療法をどう選択するか	春日井博志・他 529(3)
肝細胞癌の非外科的治療はどこまで可能か	椎名秀一朗・他 532(3)
肝細胞癌の最良の治療手順をどう決定するか	黒川 典枝・他 536(3)
漢方治療のために肝疾患の症候をどうとらえるか	星野恵津夫 539(3)
肝疾患の生活指導—断酒すべきか、安静は必要か	

肝疾患の遺伝子治療はどこまで期待できるか	渡辺 明治 542(3)
肝移植—誰に、いつ、どこで行うか	松下 栄紀・他 544(3)
肝疾患の自然史と予後	矢永 勝彦・他 547(3)
健診で発見されたC型肝炎の経過は病院受診者と 同様な	渋谷 明隆・他 551(3)
慢性肝炎の進行を予測することは可能か	多羅尾和郎・他 554(3)
非A非B非C型肝炎の予後は良好か	岡田 俊一・他 558(3)
日本人の自己免疫性肝炎は海外とどう異なるか	銭谷 幹男 560(3)
今月の主題・理解のための43題	564(3)
解 答	620(3)

皮膚科から内科医へのアドバイス

皮膚の診察のすすめかた	早川 和人 628(4)
皮膚症状をみて何を考えるか	
紫斑	斉藤 隆三 631(4)
水疱	飯田 孝志・他 634(4)
膠原病の発疹のみかた	衛藤 光 637(4)
黄色腫のみかた	松尾 幸朗 641(4)
ウイルス性急性発疹症の皮疹	日野 治子 644(4)
薬疹のみかた	畑 三恵子・他 648(4)
内科と皮膚科の境界領域	
Sweet病	繁益 弘志 652(4)
ライム病	馬場 俊一 654(4)
サルコイドーシス	和泉 達也 658(4)
Behçet病	小松 威彦 661(4)
Recklinghausen病	本田まりこ・他 665(4)
アレルギー性肉芽腫症(Churg-Strauss病)	北島 拓弥 669(4)
HCV感染と皮膚症状	秋山 真志 672(4)
内臓悪性腫瘍と皮膚症状	海老原 全 675(4)
AIDSにおける皮膚症状	赤城久美子 679(4)
内科医が知っておきたい皮膚疾患	
成人型アトピー性皮膚炎	今山 修平 683(4)
接触皮膚炎	戸倉 新樹 686(4)
皮膚掻痒症	高橋 慎一 690(4)
乾癬	小林 仁・他 692(4)
蕁麻疹	杉 俊之 696(4)
白癬	加藤 卓朗 698(4)

疥癬	大滝 倫子 701(4)
梅毒	大谷 道廣 705(4)
皮膚T細胞性リンパ腫—菌状息肉症とSezary症候 群を中心にして	岩月 啓氏 709(4)
内科医が早めに皮膚科にコンサルテーションすべき 疾患	
ヘルペス	山崎雄一郎・他 713(4)
褥瘡	村木 良一・他 716(4)
重症薬疹	野崎 重之 720(4)
壊死性筋膜炎	乃木田俊辰 723(4)
天疱瘡・類天疱瘡	高森 建二 727(4)
内科医も理解しておきたい皮膚科の検査	
皮膚生検	井手 瑛子 731(4)
パッチテスト	大井 綱郎 734(4)
真菌検査	比留間政太郎 737(4)
皮膚科領域の薬の使い方と治療	
抗ヒスタミン剤・抗アレルギー薬	川久保 洋 741(4)
副腎皮質ステロイド外用剤	石河 晃 744(4)
シクロスポリン	石井 則久・他 748(4)
紫外線療法	段野貴一郎 752(4)
レーザー療法	斉藤 浩 754(4)
今月の主題・理解のための38題	757(4)
解 答	819(4)

心不全を見直す

Introduction	
臨床統計値からみた日本人の心不全—有病率、死亡 率、原因疾患と頻度など	半田俊之介・他 828(5)
最近の心不全の大規模試験から読み取るべきこと	村上 知行・他 834(5)
心不全の症状予後および生命予後	渡邊 正司・他 838(5)
心不全とは何か	
心不全とは何か	菅 弘之 844(5)
臨床症候から	山本 啓二・他 847(5)
循環動態および心収縮性から	木全 心一 851(5)
循環の制御から	木之下正彦 854(5)
心不全の診断と重症度評価	
心不全の診断と評価の進め方	弘田 雄三 858(5)
臨床症状と病態評価	中村 芳郎・他 862(5)
新しい心不全ガイドラインとモニタリング	堀 進悟・他 866(5)

非侵襲的評価法と指標—有用性と問題点	
.....古谷 雄司・他	869(5)
運動耐容能による評価 …宮城 匡子・他	872(5)
心臓カテーテル法による評価—循環動態, 左室造影法, 収縮性の指標 …石川 欽司・他	876(5)
神経体液性因子の臨床評価	
.....堀 正二・他	879(5)
〈心不全の原因とその対応〉	
Introduction—心不全の原因	
.....半田俊之介・他	883(5)
心不全の誘発要因とその対策	
.....茅野 真男・他	886(5)
前負荷の管理・調節 …赤石 誠	891(5)
後負荷の管理・調節 …阿部 純久	895(5)
心収縮能の管理と治療 …増田 卓・他	899(5)
心拍数の管理と治療 …田辺 晃久	905(5)
拡張障害の管理 …芹澤 剛	911(5)
高齢者における管理と治療	
.....今井 保・他	914(5)
成人のチアノーゼを伴う先天性心疾患	
.....中澤 誠・他	918(5)
〈心不全の管理・治療〉	
心不全の管理・治療の基本方針	
.....小川 研一・他	923(5)
無症状の心機能低下例の管理	
.....安村 良男・他	927(5)
一般療法のポイント …秋月 哲史・他	930(5)
薬物療法の実際—急性期ならびに急性増悪期	
.....小川 久雄	934(5)
—慢性期 …秋田 穂束・他	937(5)
Intervention …宇井 克人・他	940(5)
外科治療 …西田 博・他	944(5)
心不全の治療に伴う不整脈の管理	
.....馬場 彰泰・他	948(5)
リハビリテーションと運動療法	
.....齋藤 宗靖	950(5)
心不全改善後の生活指導 …濱本 紘	953(5)
〈合併症を伴う心不全の管理と治療〉	
不整脈 …飯沼 宏之	957(5)
呼吸不全 …一ノ瀬正和・他	962(5)
腎機能障害 …青木 聡・他	965(5)
肝機能低下 …前原 和平・他	969(5)
妊娠 …石光 敏行・他	972(5)
甲状腺機能障害 …中澤 博江	975(5)
外科治療を必要とする諸疾患	

.....木村 満	978(5)
今月の主題・理解のための40題 …	983(5)
解答 …	1027(5)
内科医のための Interventional Radiology	
〈Introduction〉	
Interventional Radiology の沿革と概要	
.....栗林 幸夫	1038(6)
〈血管系の Interventional Radiology—血管形成術〉	
狭心症に対する冠動脈形成術およびステント	
.....宮崎 俊一	1042(6)
急性心筋梗塞に対する IVR	
.....秋山 達朗・他	1047(6)
冠動脈の intervention における血管内超音波	
.....山岸 正和・他	1052(6)
経皮経静脈的僧帽弁交連裂開術(PTMC)	
.....木村 晃二・他	1058(6)
腎血管性高血圧症に対する経皮経管的血管形成術(PTRA) …成松 芳明・他	1062(6)
下肢閉塞性動脈硬化症に対する IVR—バルーン PTA …村上 龍次・他	1067(6)
下肢閉塞性動脈硬化症に対する IVR—アテレクトミー …田中 良一・他	1070(6)
下肢閉塞性動脈硬化症に対する IVR—メタリックステント …吉川 公彦・他	1073(6)
下大静脈狭窄に対するステント治療	
.....甲田 洋一・他	1078(6)
下大静脈フィルター挿入術 …古寺 研一	1082(6)
経皮的血管内異物除去術	
.....斎藤 拓郎・他	1086(6)
〈血管系の Interventional Radiology—動脈塞栓術〉	
脳脊髄血管病変に対する塞栓術	
.....緒方 登・他	1091(6)
喀血に対する動脈塞栓術	
.....早川 克己・他	1096(6)
肺動静脈瘻に対する経皮的塞栓術	
.....廣田 省三・他	1100(6)
消化管出血に対する IVR	
.....草野 正一・他	1104(6)
肝細胞癌に対する動脈塞栓術(TAE)—リピオドール併用動脈塞栓術 …打田日出夫・他	1108(6)
肝細胞癌に対する動脈塞栓術(TAE)—進行肝細胞癌に対する動脈塞栓術	
.....東原 秀行・他	1114(6)
転移性肝癌に対する動注化学療法	
.....高安 幸生	1118(6)

骨盤骨折に対する動脈塞栓術	川俣 博志・他 1123(6)
〈非血管系の Interventional Radiology〉	
食道癌に対するメタリックステント	前田 宗宏・他 1129(6)
肝細胞癌に対するエタノール注入療法	田中 正俊・他 1136(6)
胆道狭窄に対する胆道ドレナージ法の選択	齋藤 博哉・他 1140(6)
胆道悪性腫瘍に対するメタリックステント	吉岡 哲也・他 1146(6)
胆道結石に対する IVR	佐伯 光明・他 1152(6)
気管・気管支狭窄に対するメタリックステント	澤田 敏 1156(6)
膿瘍ドレナージ	川口 洋・他 1160(6)
超音波ガイド下針生検	林 信成 1166(6)
〈Interventional Radiology のトピックス〉	
経皮的肝内門脈肝静脈短絡術(TIPS)	中村 健治 1170(6)
ステントグラフトを用いた大動脈瘤治療	加藤 雅明 1176(6)
今月の主題・理解のための 27 題	1181(6)
解 答	1224(6)
血栓症と DIC	
〈Editorial〉	
多くの疾患と密接な関係にある血栓止血	高橋 芳右 1242(7)
〈止血機序と血栓形成機序〉	
一次止血反応—血管, 血小板, von Willebrand 因子	森木 隆典・他 1244(7)
凝固機序	森田 隆司 1247(7)
細胞依存の線溶機構	高橋 敬 1250(7)
血栓準備状態(凝固亢進状態)	荻尾 七臣・他 1256(7)
〈診断—血栓症および DIC 患者への臨床的アプローチ〉	
診察上のポイント	勝見 章・他 1259(7)
検査診断および診断基準	福江 英尚・他 1263(7)
〈治療の基本〉	
抗血栓療法	横山 健次・他 1268(7)
血栓溶解療法	上嶋 繁・他 1271(7)
DIC 治療のあり方	高橋 芳右 1274(7)
抗血栓療法のモニタリング	中川 雅夫 1279(7)
〈血栓傾向〉	

抗リン脂質抗体症候群	家子 正裕・他 1284(7)
血栓性血小板減少性紫斑病	布施 一郎 1287(7)
慢性骨髄増殖性疾患における止血異常と血栓症	塘 賢二郎・他 1290(7)
ネフローゼ症候群と血栓傾向	鈴木 亨・他 1294(7)
高脂血症と血栓傾向	丸山 征郎 1297(7)
糖尿病と血栓傾向	海津 嘉蔵・他 1301(7)
妊娠と血栓傾向	寺尾 俊彦 1305(7)
術後血栓症	篠木 信敏・他 1308(7)
薬剤による血栓形成傾向	下平 滋隆・他 1312(7)
〈血栓症の治療と再発予防〉	
深部静脈血栓症と肺塞栓症	岩本 伸一・他 1317(7)
閉塞性動脈疾患	小代 正隆 1320(7)
心筋梗塞と血栓溶解療法	塘 義明・他 1323(7)
急性期脳虚血の局所線溶療法	高橋 明 1327(7)
脳梗塞と抗血栓療法	内山真一郎 1331(7)
心房細動と塞栓症予防	青崎 正彦・他 1336(7)
PTCA 後再狭窄の予防	森下 竜一・他 1339(7)
〈DIC〉	
固形癌における血栓傾向と DIC	高橋 芳右 1344(7)
白血病における出血傾向と DIC	広沢 信作 1348(7)
重症感染症に伴う凝固異常と臓器障害	河合 伸 1353(7)
重症肝不全における出血傾向と DIC	藤原 研司・他 1357(7)
産婦人科領域の DIC	寺尾 俊彦 1360(7)
術後 DIC	公文 啓二 1364(7)
救急医療と DIC	森 和久・他 1366(7)
今月の主題・理解のための 40 題	1371(7)
解 答	1413(7)
炎症性腸疾患治療のジャイアント・ステップス	
〈治療の前に知っておきたい IBD の基礎知識〉	
日本人の IBD の疫学的特徴	棟方 昭博・他 1442(8)
IBD の病因と発症のメカニズム	馬場 忠雄・他 1445(8)
IBD の経過と予後	神長 憲宏・他 1451(8)
IBD 治療の目的とゴール	上野 文昭 1454(8)

〈治療を睨んだ IBD の臨床診断学〉

IBD 診断の基本 ……朝倉 均・他 1457(8)
治療方針決定のための活動度や病態のとらえ方

……………飯塚 文瑛・他 1462(8)

IBD の消化管合併症 ……鈴木 亮一・他 1472(8)

IBD における発癌—内視鏡診断とサーベイランス
……………長廻 紘・他 1474(8)

潰瘍性大腸炎の画像診断

……………五十嵐正広・他 1480(8)

クローン病の画像診断 ……杉野 吉則・他 1486(8)

免疫学的検査の治療的意義 ……渡辺 守 1491(8)

〈IBD 治療の基本薬〉

サラゾスルファピリジン—これからも標準薬か

……………小林 清典・他 1495(8)

5-ASA—治療体系は果たして変わるか

……………里見 匡迪・他 1500(8)

副腎皮質ステロイド—いつ、どのように用いるか

……………蘆田 知史・他 1505(8)

免疫抑制剤は IBD 治療の“first-line drug”か

……………岩男 泰・他 1510(8)

止痢剤・鎮痙剤・抗生物質をどう用いるか

……………柳川 健 1512(8)

〈IBD の栄養管理と在宅管理〉

栄養療法は主役か、脇役か ……樋渡 信夫 1515(8)

IBD 患者の生活指導について

……………高添 正和 1519(8)

クローン病の primary therapy としての成分栄養
法 ……………大林 隆晴・他 1522(8)

クローン病における完全静脈栄養の適応と限界

……………正田 良介・他 1525(8)

〈内科治療の限界と外科治療〉

潰瘍性大腸炎の外科治療—いつ考慮するか

……………今村 幹雄・他 1528(8)

クローン病の外科治療—何を対象とするか

……………福島 恒男・他 1531(8)

IBD に対する腹腔鏡下手術—適応と限界

……………渡邊 昌彦・他 1534(8)

〈特殊治療の理論的背景と将来展望〉

全身的影響の少ないステロイドによる局所療法

……………押谷 伸英・他 1536(8)

新しい免疫療法 ……………日比 紀文・他 1538(8)

潰瘍性大腸炎の白血球除去療法

……………大西 国夫・他 1541(8)

〈病態に応じた IBD の治療〉

潰瘍性大腸炎の治療戦略

……………牧山 和也・他 1546(8)

ステロイド抵抗性/依存性の潰瘍性大腸炎

……………山崎日出雄 1550(8)

クローン病の治療戦略 ……大原 信・他 1552(8)

会陰部クローン病の保存的治療と外科治療

……………鈴木 公孝・他 1556(8)

妊娠、授乳時の IBD の治療

……………杉浦 弘和・他 1558(8)

高齢 IBD 患者の治療と問題点

……………金城 福則 1560(8)

IBD の消化管外合併症とその治療

……………柴田 実 1562(8)

〈クリニカル・ワークショップ〉

IBD 治療における内科と外科のインタープレー

飯塚 文瑛・日比 紀文・杉田 昭・上野 文
昭 ……………1565(8)

今月の主題・理解のための 33 題 ……………1581(8)

解 答 ……………1591(8)

レディースクリニック

〈女性の成熟と加齢〉

女性の成熟と妊娠 ……………牧野 恒久 1638(9)

閉経と更年期障害 ……………寺川 直樹 1640(9)

高齢女性の諸問題 ……………村上 元庸 1643(9)

〈女性患者をどう診るか〉

病歴・身体所見のとりかた ……加藤 清恵 1646(9)

検査・診断・治療のストラテジー

……………藤嶋美奈子・他 1649(9)

〈妊娠中にみられる問題〉

妊娠と高血圧 ……………関 顕 1653(9)

妊娠と糖尿病 ……………宮内 英二・他 1656(9)

妊娠と心疾患 ……………石光 敏行・他 1659(9)

妊娠と喘息 ……………長井 苑子 1662(9)

妊娠と自己免疫性甲状腺疾患

……………百溪 尚子 1664(9)

妊娠と感染症 ……………青木 泰子 1668(9)

妊娠と肝疾患 ……………中園 光一・他 1671(9)

妊娠中の外科的疾患 ……………門田 俊夫 1674(9)

妊娠と薬剤の使用 ……………足立伊佐雄 1676(9)

〈女性と内分泌・代謝疾患〉

骨粗鬆症 ……………森本 茂人・他 1681(9)

肥満 ……………高松 和永・他 1684(9)

体重減少 ……………山田研太郎 1686(9)

甲状腺機能亢進 ……………年森 啓隆・他 1688(9)

甲状腺機能低下 ……………年森 啓隆・他 1691(9)

〈女性と感染症〉

尿路感染症の治療と予防 ……………持田 蔵・他 1696(9)	る患者の診察 ……………平井 俊策 1840(10)
性感染症(STD) ……………広瀬 崇興 1699(9)	痴呆と紛らわしい病態
〈女性と循環器疾患〉	1) せん妄 ……………高橋 三郎 1844(10)
下肢静脈瘤 ……………海老根東雄 1702(9)	2) 失語・失行・失認など ……………板東 充秋 1847(10)
原発性肺高血圧症 ……………国枝 武義 1706(9)	〈脳血管性痴呆〉
中年女性の心電図異常と狭心症 ……………清水 啓之・他 1712(9)	脳血管性痴呆ー症状の特徴と診断 ……………高橋 智・他 1851(10)
〈女性と消化器疾患〉	限局性病変による痴呆 ……………秋口 一郎 1854(10)
便秘 ……………高橋 裕 1714(9)	ビンスワンガー病 ……………山之内 博 1857(10)
胆石症 ……………松崎 靖司・他 1717(9)	脳血管性痴呆の予防と治療 ……小林 祥泰 1861(10)
自己免疫性肝炎 ……………北澤絵里子・他 1720(9)	〈治療困難な痴呆ー変性型痴呆性疾患〉
原発性胆汁性肝硬変(PBC) ……………渋谷 明隆・他 1722(9)	皮質痴呆と皮質下痴呆 ……………松下 正明 1864(10)
〈女性と血液疾患〉	アルツハイマー型痴呆ー症状の特徴と診断 ……………松下 正明 1868(10)
貧血 ……………山本 昌利・他 1727(9)	アルツハイマー型老年痴呆の画像診断 ……………吉田 亮一 1871(10)
特発性血小板減少性紫斑病と妊娠・出産 ……………川合 陽子 1730(9)	ピック病, 非アルツハイマー前頭葉痴呆 ……………三山 吉夫 1875(10)
出血傾向 ……………高松 純樹 1733(9)	パーキンソン病, レビー小体病, 錐体外路系変性疾 患に伴う痴呆 ……………小田原俊成・他 1878(10)
〈女性と膠原病〉	運動ニューロン疾患と痴呆 ……村上 信之 1881(10)
慢性関節リウマチ ……………川畑 仁人・他 1737(9)	〈治療困難な痴呆患者の治療・対処法〉
全身性エリトマトーデス(SLE) ……………小林 茂人 1740(9)	興奮・徘徊などの周辺精神症状の治療 ……………山本 光利 1884(10)
大動脈炎と血管炎 ……………野中 泰延 1743(9)	痴呆患者の症状を悪くする薬 ……………山本 光利 1886(10)
〈女性と悪性腫瘍〉	痴呆患者の尿失禁の治療と対策 ……………中内 浩二 1889(10)
乳癌 ……………村山 章裕・他 1747(9)	痴呆患者の介護のコツ ……………鎌田ケイ子 1892(10)
卵巣癌 ……………池田 俊一・他 1750(9)	痴呆患者の介護に利用できる社会的資源ー医療・保 健・福祉サービス ……………柄澤 昭秀 1895(10)
子宮癌 ……………吉田 祐司・他 1753(9)	痴呆老人の「入院」をめぐる問題 ……………竹中 星郎 1899(10)
〈女性にみられる問題〉	アルツハイマー型痴呆の治療の新しい試み ……………森松 光紀 1902(10)
不妊症 ……………関 守利 1758(9)	〈治療可能な原因による痴呆症状〉
経口避妊薬 ……………青崎 正彦・他 1762(9)	どんな痴呆をみたときに治療可能と考えるか ……………森松 光紀 1905(10)
女性の心身症とその周辺 ……………宮岡 等・他 1765(9)	内科疾患に伴う痴呆 ……………宇高不可思・他 1909(10)
キッチンドリッカー ……………重田 洋介 1768(9)	脳神経外科的疾患に伴う痴呆様症状 ……………小林 秀 1912(10)
セクシャル・ハラスメント ……………高岡 健・他 1770(9)	仮性痴呆ー精神疾患による痴呆様症状 ……………木戸 又三 1915(10)
女性の荷おろし症候群 ……………半田 貴士 1772(9)	薬物による痴呆類似症状
化粧品皮膚炎 ……………中山 秀夫 1755(9)	
今月の主題・理解のための46題 ……………1781(9)	
解 答 ……………1822(9)	
内科医のための痴呆の最新知識	
〈Editorial〉	
痴呆への多面的アプローチ ……葛原 茂樹 1836(10)	
〈ベッドサイドでの痴呆患者の診察〉	
痴呆かどうかの見分け方ー精神症状・異常行動のあ	

……………加瀬 光一・他 1919(10)	
〈最近注目されている痴呆の原因疾患〉	
クロイツフェルト・ヤコブ病とプリオン病	
……………堂浦 克美 1922(10)	
AIDS と痴呆 ……………矢野 雄三 1926(10)	
脳アミロイドアンギオパチーと痴呆	
……………池田 修一 1930(10)	
〈痴呆の予知・予測・予防〉	
アルツハイマー病の原因遺伝子	
……………奥泉 薫・他 1935(10)	
痴呆発症の促進・制御因子としてのアポリポ蛋白	
……………植木 彰 1939(10)	
痴呆を予防するライフスタイル	
……………近藤喜代太郎 1943(10)	
今月の主題・理解のための 29 題 ……………1947(10)	
解 答 ……………1989(10)	
心エコー Today	
〈何を診断できるかー原理, 正常波形と臨床応用〉	
M モード心エコー図と断層(2D)心エコー図	
……………林 輝美 2015(11)	
3D・4D 心エコー図 ……三神 大世・他 2022(11)	
ドプラ法 ……………渡辺 弘之・他 2026(11)	
経食道心エコー図 ……刀襴 尚・他 2032(11)	
負荷心エコー法 ……………小柳 左門 2036(11)	
コントラスト心エコー法	
……………林 英幸・他 2040(11)	
血管内エコー法 ……………出川 敏行・他 2046(11)	
血管内ドプラ法 ……………大倉 宏之・他 2050(11)	
〈どう診断するかー効果的な心エコー法の組み合わせ〉	
よい心エコー図をとるコツ ……桑子 賢司 2057(11)	
どれがアーチファクトか	
……………山室 淳・他 2060(11)	
〔形態異常の診断〕	
心室と心房 ……………横田 慶之 2065(11)	
房室弁と半月弁 ……………鈴木 真事 2070(11)	
大動脈・肺動脈・下大動脈 ……羽田 勝征 2073(11)	
心筋・心膜 ……………増山 理・他 2077(11)	
先天性心疾患 ……………里見 元義・他 2082(11)	
〔機能異常の診断〕	
心室の収縮機能と拡張機能 ……竹中 克 2087(11)	
心血管の内圧測定 ……………岩瀬 正嗣 2090(11)	
心臓内の血流動態 ……………水重 克文・他 2098(11)	
冠動脈内の血流動態 ……土井 泰治・他 2102(11)	
〈虚血性心疾患の診断と治療への応用〉	

狭心症の診断と評価 ……………石蔵 文信 2107(11)	
急性および陳旧性心筋梗塞の診断と評価	
……………石光 敏行 2110(11)	
急性心筋梗塞の合併症の診断と評価	
……………澤田 準 2115(11)	
急性心筋梗塞の心筋灌流 ……伊藤 浩 2118(11)	
冠動脈硬化症と血管内エコー法・ドプラ法	
……………山岸 正和・他 2123(11)	
冠動脈インターベンションと血管内エコー法	
……………矢嶋 純二・他 2128(11)	
〈弁膜疾患の診断と治療への応用〉	
僧帽弁膜症の診断と評価	
……………平井 寛則・他 2133(11)	
大動脈弁膜症の診断と評価 ……中村 一彦 2138(11)	
三尖弁膜症と肺高血圧症の診断と評価	
……………小澤 優樹 2143(11)	
感染性心内膜炎と心エコー法	
……………中村 憲司・他 2149(11)	
人工弁の評価 ……………佐伯 文彦 2152(11)	
〈その他の循環器疾患の診断と治療への応用〉	
肥大型心筋症・拡張型心筋症の診断と評価	
……………永田 正毅 2156(11)	
急性心膜炎・心タンポナーデと収縮性心膜炎	
……………田畑 智継・他 2160(11)	
解離性大動脈瘤 ……………許 俊鋭・他 2164(11)	
成人の先天性心疾患 ……………天野 恵子 2168(11)	
心臓腫瘍 ……………筒井 洋・他 2172(11)	
脳梗塞と血栓・動脈硬化	
……………友近 康明・他 2175(11)	
〈鼎談〉	
心エコー図の進歩と効果的な使い方	
山口 徹・吉川 純一・別府慎太郎 2193(11)	
今月の主題・理解のための 33 題 ……………2183(11)	
解 答 ……………2230(11)	
内分泌疾患の検査	
〈オーバービュー〉	
生体内のホルモンと分泌調節 山下 直秀 2238(13)	
〈下垂体前葉ホルモン系〉	
GH (含, ソマトメジン C)	
……………村上 宜男・他 2241(13)	
TSH ……………異 圭太・他 2246(13)	
PRL ……………日高 博之・他 2248(13)	
ACTH ……………蔭山 和則・他 2251(13)	
LH・FSH ……………若林 一二 2254(13)	
GHRH 負荷試験……………阿部 廣己・他 2258(13)	

TRH 試験	島津 章	2260(13)
LHRH 試験	中井 義勝	2262(13)
CRH 試験	橋本 浩三	2266(13)
〈下垂体後葉ホルモン系〉		
ADH	山路 徹	2269(13)
水制限試験・バゾプレッシン試験	齋藤 孝子・他	2272(13)
高張食塩水負荷試験	大磯ユタカ	2276(13)
〈甲状腺ホルモン系〉		
T ₄ /free T ₄	百溪 尚子・他	2279(13)
T ₃ /free T ₃	女屋 敏正	2282(13)
TBG	小澤 安則	2284(13)
サイログロブリン	高須 信行	2287(13)
マイクロゾームテスト・サイロイドテスト	網野 信行・他	2290(13)
TPO	高松 順太	2294(13)
TRAb	橋爪 潔志	2298(13)
甲状腺ヨード摂取率・T ₃ 抑制試験	山本 通子	2300(13)
〈副甲状腺ホルモン系〉		
PTH・PTHrP	福本 誠二・他	2305(13)
ビタミン D	永田 直一	2308(13)
カルシトニン	佐藤 幹二	2312(13)
Ellsworth-Howard 試験	池田 恭治	2314(13)
〈副腎皮質ホルモン系〉		
コルチゾール (血中・尿中)	宮地 幸隆・他	2316(13)
尿中 17-OHCS・17-KS	岡嶋泰一郎・他	2319(13)
アルドステロン	大石由美子・他	2322(13)
ACTH 負荷試験 (迅速負荷試験, 連続負荷試験)	田中 祐司	2325(13)
デキサメサゾン抑制試験	沖 隆・他	2328(13)
メチラボン試験	鈴木 洋一・他	2332(13)
立位フロセミド負荷試験	河邊 博史・他	2334(13)
〈副腎髄質ホルモン系〉		
カテコールアミン (血中・尿中)	中井 利昭	2337(13)
尿中メタネフリン・ノルメタネフリン	吉村 学・他	2340(13)
尿中 VMA	中井 利昭	2342(13)
クロニジン抑制試験	高野 幸路	2344(13)
〈性腺ホルモン系〉		
エストロゲン・プロゲステロン	神崎 秀陽・他	2347(13)
テストステロン・遊離テストステロン		

.....	養和田 滋	2350(13)
プロゲステロン試験, エストロゲン・プロゲステロン試験	堤 治	2354(13)
クロミフェン試験	高橋 真・他	2358(13)
hMG, hCG 負荷試験	菅沼 信彦・他	2360(13)
プレマリン試験	吉村 泰典	2362(13)
hCG 負荷試験 (男性)	國武 剛・他	2364(13)
〈検査における保険請求〉		
ホルモン検査における保険請求上の注意		
.....	中林 梓	2367(13)
今月の主題・理解のための 34 題		2378(13)
解答		2399

〔カラーグラフ 塗抹標本をよく見よう〕

1. 赤血球の異常 (1)	久保西一郎・他	157(1)
2. 赤血球の異常 (2)	久保西一郎・他	361(2)
3. 赤血球の異常 (3)	久保西一郎・他	583(3)
4. 赤血球の異常 (4)	久保西一郎・他	769(4)
5. 赤血球の異常 (5)	久保西一郎・他	995(5)
6. 血小板の異常 (1)	久保西一郎・他	1199(6)
7. 血小板の異常 (2)	久保西一郎・他	1383(7)
8. リンパ球の異常 (1)	久保西一郎・他	1593(8)
9. リンパ球の異常 (2)	久保西一郎・他	1799(9)
10. リンパ球の異常 (3)	久保西一郎・他	1957(10)
11. 白血病 (1)	久保西一郎・他	2211(11)
12. 白血病 (2)	久保西一郎・他	2387(13)

〔グラフ 高速 CT によるイメージング〕

1. 肝の腫瘍性病変	関口 隆三・他	161(1)
2. 肝の IVR-CT/Angio System	佐竹 光夫・他	367(2)
3. 脾の腫瘍性病変	森山 紀之・他	615(3)
4. 心臓領域の Helical CT	松本 滋・他	999(5)
5. 大血管の病変 (1) - 肺血栓塞栓症	栗林 幸夫・他	1203(6)
6. 大血管の病変 (2) - 大動脈瘤・大動脈解離	栗林 幸夫・他	1389(7)
7. 肺の実質性病変	鈴木 孝司・他	1605(8)
8. 肺の気道病変	森 清志・他	1803(9)
9. 脳腫瘍診断における三次元 CT の臨床応用	小倉 祐子	1963(10)
10. 脳血管病変における三次元 CT 血管像 (3D-CT)	小倉 祐子・他	2217(11)

〔演習 胸部 CT の読み方〕

7. 右側胸部痛で受診した 64 歳の男性	大道 和宏・他	175(1)
-----------------------	---------	--------

8. 労作時呼吸困難で来院した 64 歳の男性
.....柳田 実郎・他 391(2)
9. 乾性咳嗽, 微熱を繰り返した 21 歳の男性
.....横崎 恭之・他 589(3)
10. 労作時呼吸困難にて受診した 46 歳の女性
.....奥崎 健・他 781(4)
11. 急性呼吸不全で救急入院した 44 歳の女性
.....由田 康弘・他 1013(5)
- 12(最終回). 咳嗽・呼吸困難にて受診した 50 歳の女性
.....村上 功・他 1229(6)

〔図解・病態のメカニズム—分子レベル
からみた神経疾患〕

5. DNA 修復と神経疾患—色素性乾皮症
.....西澤 正豊 179(1)
6. トリプレットリピート病(1)—筋緊張性ジストロ
フィー江口 郁代 381(2)
7. トリプレットリピート病(2)—脊髄小脳変性症
.....池内 健・他 595(3)
8. ビオプリテン代謝障害—著明な日内変動を伴う遺
伝性進行性ジストニア
.....瀬川 昌也・他 787(4)
9. チャネル病—周期性四肢麻痺
.....田中 恵子 1017(5)
10. Dystrophin 関連蛋白の異常と筋ジストロフィー
.....松村喜一郎 1211(6)
11. Paraneoplastic syndrome(傍腫瘍性神経症候群)
の分子医学犬塚 貴 1399(7)
12. ミトコンドリア脳筋症米田 誠 1615(8)
13. モデルマウスの作製若松 延昭 1977(10)
14. 構造蛋白異常による末梢神経障害—Charcot-
Marie-Tooth 病小池 亮子 2401(13)

〔Drug Information—副作用情報〕

1. 生命にかかわる重大な害反応について
.....浜 六郎 186(1)
2. 薬剤性ショック(1)浜 六郎 609(3)
3. 薬剤性ショック(2)浜 六郎 1221(6)
4. ヒスタミン H₂受容体拮抗薬による血液障害・感
染症浜 六郎 1409(7)
5. 薬剤性ショック(3)浜 六郎 1625(8)
6. 薬剤性ショック(4)浜 六郎 1815(9)
7. 致命的だが稀な害反応の危険/利益比の考え方と
情報提供のあり方浜 六郎 1983(10)
8. 薬剤性ショック(5)—心室頻拍;torsades de
pointes浜 六郎 2225(11)
9. 痙攣を生じる薬剤浜 六郎 2405(13)

〔知っておきたい産婦人科の疾患と知識〕

5. 軽い下腹痛と子宮外妊娠
.....松井 尚彦・他 183(1)
 6. 嘔気, 食欲不振と妊娠
.....吉松 淳・他 386(2)
 7. 若年期の骨粗鬆症—無月経と腰痛
.....穴井 孝信・他 605(3)
 8. 薬剤と月経異常田中雄一郎・他 795(4)
 9. 下腹痛と性感染症宮村 研二・他 1023(5)
 10. 更年期に起こる自律神経失調症
.....松木 俊二・他 1217(6)
 11. 産婦人科疾患で異常値を示す腫瘍マーカー
.....藤澤 佳代・他 1405(7)
 12. 肥満, 月経異常と多嚢胞性卵巣症候群
.....植原 久司・他 1621(8)
 13. 閉経後にみられる疾患と卵巣ホルモン補充療法
.....宮川 勇生・他 1811(9)
- 〔アメリカ・ブラウン大学医学部在学日記〕
16. ブラウン大学に入るまでの生い立ちと経緯
.....赤津 晴子 189(1)
 - 17・最終回. アメリカでの医学部 4 年間を支えてくれ
たもの赤津 晴子 402(2)

〔目でみるトレーニング〕

- | | | |
|-------|------------|---------|
| 問題 74 |浜重 直久 | 169(1) |
| 75 |藤岡 知昭 | 170(1) |
| 76 |野坂 俊介 | 171(1) |
| 77 |窪川 渉一 | 375(2) |
| 78 |藤岡 知昭 | 376(2) |
| 79 |小越 和栄 | 377(2) |
| 80 |川井 和哉 | 576(3) |
| 81 |古寺 研一 | 577(3) |
| 82 |氏平 伸子 | 578(3) |
| 83 |山崎 正博 | 775(4) |
| 84 |倉田 忠宜 | 776(4) |
| 85 |中村 昭範 | 777(4) |
| 86 |金田 智 | 1007(5) |
| 87 |栄枝 弘司 | 1008(5) |
| 88 |斎藤 征史 | 1009(5) |
| 89 |古寺 研一 | 1191(6) |
| 90 |渡辺 謙 | 1192(6) |
| 91 |氏平 伸子 | 1194(6) |
| 92 |仲原 弘 | 1597(8) |
| 93 |柴田 実 | 1598(8) |
| 94 |金田 智 | 1599(8) |
| 95 |川村 統勇 | 1791(9) |

96	倉田 忠宜	1792(9)
97	柴田 実	1793(9)
98	新井 弥生	1971(10)
99	岩永 賢司	1972(10)
100	柴田 実	1973(10)
101	貞森 直樹	2205(11)
102	廣谷 信一	2206(11)
103	藤崎 順子	2207(11)
104	貞森 直樹	2393(13)
105	野田 裕	2394(13)
106	植島 久雄	2395(13)
〔医道そぞろ歩き—医学史の視点から〕		
9.	ヤッフォの海は青く—97年後に蘇ったホジキンの標本	二宮 陸雄 192(1)
10.	北イタリアの学部パドヴァ	二宮 陸雄 400(2)
11.	インスリン発見を1ドルで売ったバンディング	二宮 陸雄 612(3)
12.	自由を標榜したパドヴァ大学	二宮 陸雄 800(4)
13.	神聖な最高の職務とは	二宮 陸雄 1028(5)
14.	『ファブリカ』を出版したバーゼルのオポリヌス	二宮 陸雄 1224(6)
15.	科学的医学を追求したベルナール	二宮 陸雄 1414(7)

16.	権威に挑戦したヴェサリウス	二宮 陸雄 1628(8)
17.	南フランスのモンペリエ医学校	二宮 陸雄 1820(9)
18.	ボローニャ大学のモンディーノ	二宮 陸雄 1990(10)
19.	サレルノの医学校	二宮 陸雄 2228(11)
20.	田原淳の心臓刺激伝達系	二宮 陸雄 2410(13)
〔 <i>medicina Conference</i> 〕		
(第16回)	発熱・全身倦怠感・汎血球減少を示し、急激に全身状態が悪化した46歳の女性	小山 高敏・小宮 格・井上 靖之 山田 哲也・八田 和大・押味 和夫 194(1)
(第17回)	発熱、湿性咳嗽を訴えた脳梗塞の既往のある54歳の男性	高橋 義和・岡井 隆弘・有岡 宏子 菊池 隆秀・北原 光夫・押味 和夫 802(4)
(第18回)	多飲・多尿と軽度の労作時息切れを呈した29歳の男性	内田 大学・吉澤 正文・小澤 義典 高橋 樹・佐野 靖之・北原 光夫 1416(7)
(第19回)	ホジキン病の既往があり、呼吸困難・発熱を呈した48歳の男性	内田 耕・半田 祐一・鈴木 謙 菊池 隆秀・北原 光夫・秋月 正史 1992(10)